

十一月三日 休日・文化の日

鈴木博之、二川幸夫両氏が叙勲と新聞報道他で知る。鈴木さんは似合うな勲章が。二川さんも似合わないようで似合うんだな。両氏にお祝いの電話をする。鈴木さんは少し照れて、「ジイさんがもう賞でね」と言い、二川さんは「俺は元氣だ。死なないぜ、ガハハ」と言った。まぶしい位に年を取らないねこの人は。何処かに異常があるんじゃないか。足の骨か、気持ちの骨か折った方がいいぜ全く。室内原稿書く。何とか仕上げる。家内に読ませるにかなり不評で、頭にカーツと来たが、少し計り書き直す。十時、メディアデザイン研究所横田さん、インタビュアー今村創平君来宅。10+1の取材らしい。今村君との完全なスレちがい振りには呆然とした。こういう人間が今の建築ジャーナリズムでは通用してるのか。若い人には誤解されているんだな大方。それでも屋上に上がったりで、十七時修了。家の中で何冊か面白そうな本を発見して読みふける。馬場昭道の「ラダック紀行」も読み直してみると仲々味わい深い。

十一月四日

今日は広島の本本君との打合せが楽しみだ。ゆっくり話してみたい。

十三時研究室本本君打合せ。九州の物件のオリジナル製作部分について話し合う。十六時半迄。その間、色んな雑事あり。広島の本本君とは長い付き合いになるだろうが、良い作品を良い形式

の中で作ってゆきたい。「室内」編集長山本伊吾氏より電話いただき、連載原稿はアレでマア良いので続けると言われる。父君山本夏彦さんにも二〇年位こんな事は言われた事がないので少々気も動転する。疑心暗鬼に陥りそうだが、しかし、今度の「室内」の連載は我ながら気合いが入っているので、ホツとした。ある種の賭けみたいな連載だからなあ。しかし、私としても、どうなるうとも死んだってインだもんねの気分なんだから。十七時過、本本君と新宿で食事。十九時半迄。二〇時過世田谷村に帰る。

十一月五日 土曜日

十一時本本君来宅。二階南端の床で日差しをあびながらデレデレと話し、赤ワインを飲む。十二時半宗柳で昼食、相も変わらずデレデレと話す。ズルズル、デレデレのイタリア南部的日常だ。今日は。十五時半に本本君が何処かに帰る。室内長井嬢と連絡、長井君私の連載原稿に対しての意見を述べる。馬鹿ヤローと思いつつも、そこは私も紳士だ、ウムウムとか言つて、ムツとする感じを押し隠したのである。宮崎の藤野忠利さんより連絡いただく。

十一月六日 日曜日

終日世田谷村で作業、読書。読書の傾向がいささか堂々巡り状態になっているので要注意だ。しかし再読に耐えられる本は少ない。他人事じゃないコレフ。